



風しんにご注意

—積極的に予防接種を—

指導：国立感染症研究所感染症情報センター 第三室(予防接種室) 室長 多屋 馨子

企画：
日本医師会

No. 376

2012年は風しんが流行しています

赤いブツブツが全身に広がる風しんは、春から夏にかけて流行することが多く、2012年は2011年の患者数を大幅に上回っています。

1977年度に始まった風しんの定期接種^{※1}は、1994年度までは女子中学生のみが対象でした。1995年度から全ての1~7歳半児と中学生が接種対象になりましたが、学校での集団接種から医療機関での個別接種となったため、接種率が激減しました。今年の風しんの流行は、これらの影響によると考えられます。

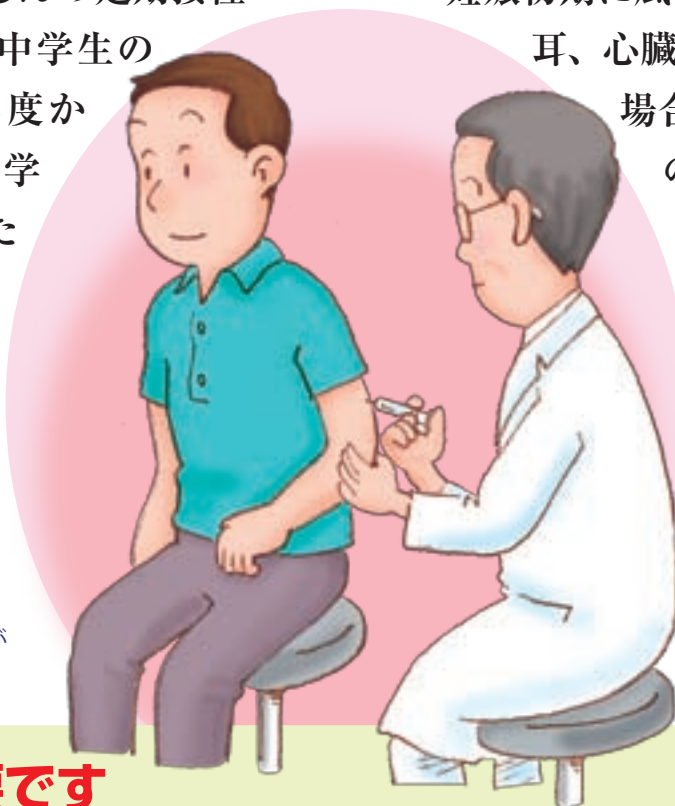
※1 定期接種：法律に基づいて市区町村が実施する予防接種

妊娠初期の女性は要注意

風しんは、男性が女性の3倍以上と、男性に多く発症しています。男性患者は85%以上が成人で、その多くが育児世代です。女性患者は70%以上が成人で、20代がもっとも多く、妊娠出産年齢にあたります。

妊娠初期に風しんにかかると、赤ちゃんの眼、耳、心臓に先天的な障がいが見られる場合があります。妊娠中は風しんの予防接種を受けられないので、女性は、妊娠前に風しんの免疫を獲得しておくことが大切です。厚生労働省の研究班の提言では、妊婦の家族への予防接種も推奨されています^{※2}。

※2 風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言(2004年)：厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業分担研究班



予防接種が重要です

2006年度から風しんの定期接種は、麻しんと混合したMRワクチンによる2回接種に変わりました。1回接種で95%以上、2回接種で99%以上の方が免疫を獲得できます。1回目は1歳、2回目は小学校入学前1年間に接種しますが、2012年度までは2回目の接種を中学1年生・高校3年生相当年齢のいずれかの時期にも受けられます(図)。

また、免疫のない成人男性と女性は、自分自身だけでなく周りの妊婦と胎児を風しんから守るためにも、積極的に予防接種を受けましょう。

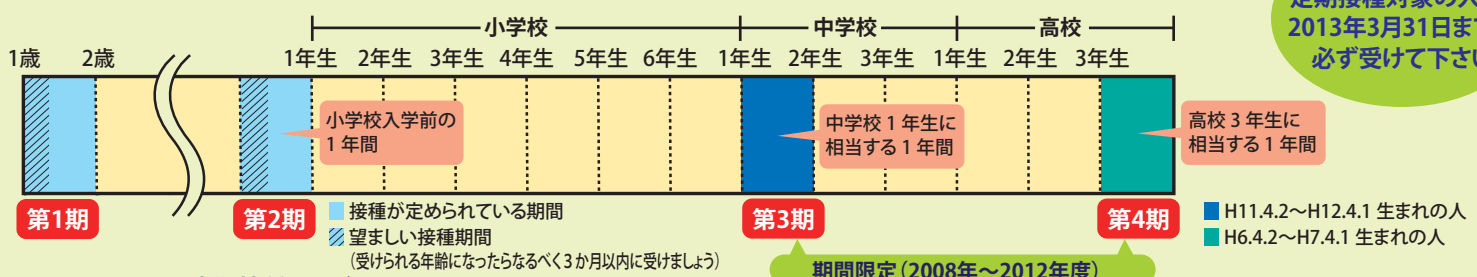


図 MRワクチン定期接種スケジュール

2012年度が定期接種対象の人は、2013年3月31日までに必ず受けて下さい

期間限定(2008年~2012年度)